

2022年度 日本工学院専門学校											
情報処理科 モバイルアプリ開発コース											
ITマネジメント											
対象	1年次	開講期	前期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	三寫 秀三			実務 経験	有	職種	システムエンジニア				
担当教員紹介											
<p>システムエンジニアとして、エアラインビジネスシステムの開発、運用、プロジェクトにおいて実務経験を持つ。 IPA各種、CompTIA、ITIL、LPIC、ORACLE MASTERなどの資格を保有。 日本サッカー協会のコーチングライセンス取得、組織マネジメント経験を持つ。</p>											
授業概要											
<p>この講義では、システムを構成するソフトウェアを開発するソフトウェア開発手法や、ある特定の目的を達成するために不定期に立ち上げられる業務やプロジェクトを成功させるための手法・技術を学習し、情報処理技術者としてのスキルを向上されるものとする。また、情報システムの効率的な運用手法や、管理手法などについても学習し、企業自らが業務を適正に遂行していくための体制作りに関する知識も学習し、社会人としての基礎的スキルとして修得するものとする。</p>											
到達目標											
<p>これから情報処理技術者として社会人になるにあたり、授業で学んだ知識を元にプロジェクトマネジメントの考え方などを理解する。情報システムを適正に運用するための知識も学習し、開発から運用まで一連の流れを全て把握できるようにする。また、情報処理業界の人材を育成するための指標として実施されている情報処理技術者試験（国家試験）の各種試験区分における基礎的知識の修得をすることによって、試験の合格も目指すものとする。</p>											
授業方法											
<p>各回の講義を通して、業務やプロジェクトを成功させるためのプロジェクトマネジメントに関する手法などを学習する。また、情報処理技術者として開発した情報システムを適正に運用・管理していくためのルール設定や、体制の確立などにも学習する。授業内容の理解度を確認するため、小テストを授業時間内に実施するものとする。</p>											
成績評価方法											
<p>試験・課題 80% 試験と課題を総合的に評価する 小テスト 10% 授業内容の理解度を確認するために実施する 平常点 10% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する</p>											
履修上の注意											
<p>この授業では、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>											
教科書教材											
IT戦略とマネジメント（インフォテック・サーブ）／授業内配布プリントなど											
回数	授業計画										
第1回	システム開発技術 システム開発プロセス、ソフトウェア実装プロセス、保守・廃棄プロセスを理解できる										
第2回	ソフトウェア開発技術 ソフトウェア開発手法、ソフトウェア設計手法、開発プロセスを理解できる										
第3回	システム開発環境 知的財産適用管理、開発環境管理、構成管理・変更管理を理解できる										
第4回	Webアプリケーション開発 Webアプリケーション、開発手法を理解できる										
第5回	プロジェクトマネジメントの概略 プロジェクトマネジメントの目的と考え方を理解できる										

2022年度 日本工学院専門学校	
情報処理科 モバイルアプリ開発コース	
ITマネジメント	
第6回	サブジェクトグループ(1) プロジェクト統合マネジメントを理解できる
第7回	サブジェクトグループ(2) プロジェクトスコープマネジメントを理解できる
第8回	サブジェクトグループ(3) プロジェクトタイムマネジメント、コストマネジメントを理解できる
第9回	サブジェクトグループ(4) プロジェクト品質マネジメント、リスクマネジメントを理解できる
第10回	サービスマネジメントの概要(1) サービスマネジメントの目的と考え方を理解できる
第11回	サービスマネジメントの概要(2) サービスマネジメントシステムの確立及び改善を理解できる
第12回	サービスマネジメントの概要(3) I T I Lを理解できる
第13回	サービスマネジメントの手法(1) サービスの設計・移行、サービスマネジメントプロセスを理解できる
第14回	サービスマネジメントの手法(2) サービスの運用、ファンリティアマネジメントを理解できる
第15回	システム監査と内部統制 システム監査の目的と考え方、I Tガバナンスを理解できる